

令和7年度 公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート

(区分) 国補・県単

事業名		林道事業〔森林基幹道開設事業（国補）〕		事業箇所	大月市梁川町～ 上野原市秋山尾崎	地区名	富士東部（北）線	事業主体	山梨県											
(1) 事業着手年度		昭和58年度	(2) 事業期間		S58 ～ R1	(3) 完了後経過年数		5年	(4) 総事業費	6,351百万円										
(5) 事業着手時点の課題・背景						(8) 事業位置図等														
本路線は、大月市梁川町と上野原市秋山尾崎を結ぶ森林基幹道であり、桂川及び秋山川流域の広大な森林の管理経営の効率化を目的に開設した。 利用区域1,313haのうちスギ、ヒノキ等の人工林が約49%を占めており、これらの森林の適正な管理や木材生産に加え、森林の持つ多面的機能を持続的に発揮させるための基盤となる基幹的な林道である。 また、国道20号と県道四日市場上野原線を連絡することにより、広域的な交通の利便性向上や、山村地域の振興、活性化にも寄与する。																				
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果																				
□主要目標 ○森林整備の効率化 （森林の持つ公益的機能の維持向上や林業生産の効率化等を図る）																				
□副次目標 ○なし																				
□副次効果 ○防火帯・延焼遮断帯の確保 ○アクセス機能の維持																				
(7) 整備内容（目標達成の方法）																				
事業概要 森林基幹道の開設 計画延長15,171m幅員5.0m 利用区域面積1,313ha森林資源蓄積量76,675㎡						<table><tr><th colspan="2">凡 例</th></tr><tr><td>利用区域</td><td></td></tr><tr><td>民有林</td><td></td></tr><tr><td>今回事業評価区間</td><td></td></tr><tr><td>接続道路</td><td></td></tr></table>					凡 例		利用区域		民有林		今回事業評価区間		接続道路	
凡 例																				
利用区域																				
民有林																				
今回事業評価区間																				
接続道路																				

2.評価シート（1）

（1）事業貢献度 〈(良)・不良〉	（2）費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 〈(有)・無〉																																																																								
（理由） 本路線の完成により、森林施業を効率的に実施できる基盤が整い、利用区域内において間伐等の森林整備が実施され、森林の公益的機能の維持増進が図られている。 また、事業実施前は伐り捨てとなっていた間伐材が木材市場等へ搬出され、木材として有効利用されるなど、事業効果が発現している。 ①主要目標 森林整備の効率化 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">指標</th> <th style="width:40%;">事業着手時点数値等</th> <th style="width:40%;">事後評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩30分範囲内の人工林率</td> <td style="text-align: center;">5.7%</td> <td style="text-align: center;">50.2%</td> </tr> </tbody> </table> □評価 ○徒歩30分範囲内の人工林率が上昇したことで、作業員の負担が大幅に軽減され、伐採・造林・保育などの作業の効率化が図られている。 ○「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源を循環利用するための土台が整い、森林を活かす持続的な林業経営が期待できる。 ○既存の木材市場への出材に加え、木質バイオマス発電所や大型合板工場など、新たに県内で稼働開始した施設からの需要に応じた木材供給が成されている。 ○間伐などの森林整備や治山事業の実施により、水源涵養や山地保全などの森林の公益的機能が高まっている。 ②副次目標 なし ③副次効果 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">項目</th> <th style="width:80%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防火帯・延焼遮断帯の確保</td> <td>林野火災時の防火帯としての機能が期待できる。消防車の出火箇所への到達が可能となり、効率的な消火活動が期待できる。</td> </tr> <tr> <td>アクセス機能の維持</td> <td>国道20号と県道四日市場上野原線を連絡する新たなアクセスルートが確立された。</td> </tr> </tbody> </table> ④その他の事業効果の発現状況 なし	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	徒歩30分範囲内の人工林率	5.7%	50.2%	項目	内容	防火帯・延焼遮断帯の確保	林野火災時の防火帯としての機能が期待できる。消防車の出火箇所への到達が可能となり、効率的な消火活動が期待できる。	アクセス機能の維持	国道20号と県道四日市場上野原線を連絡する新たなアクセスルートが確立された。	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">項 目</th> <th style="width:20%;">着手時点</th> <th style="width:20%;">再評価時点</th> <th style="width:45%;">事後評価時点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td style="text-align: right;">6,140 百万円</td> <td style="text-align: right;">6,358 百万円</td> <td style="text-align: right;">6,351 百万円</td> </tr> <tr> <td>工 期</td> <td style="text-align: center;">S58～H19</td> <td style="text-align: center;">S58～R1</td> <td style="text-align: center;">S58～R1</td> </tr> <tr> <td>評価基準年</td> <td style="text-align: center;">S58</td> <td style="text-align: center;">(H15,H20,H25),H30</td> <td style="text-align: center;">R7</td> </tr> <tr> <td rowspan="7" style="writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">経済効率性</td> <td>費用 C</td> <td style="text-align: right;">— 百万円</td> <td style="text-align: right;">15,085 百万円</td> <td style="text-align: right;">20,376 百万円</td> </tr> <tr> <td> 建設費</td> <td style="text-align: right;">— 百万円</td> <td style="text-align: right;">14,724 百万円</td> <td style="text-align: right;">19,997 百万円</td> </tr> <tr> <td> 維持管理費</td> <td style="text-align: right;">— 百万円</td> <td style="text-align: right;">361 百万円</td> <td style="text-align: right;">379 百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">百万円</td> <td style="text-align: right;">百万円</td> <td style="text-align: right;">百万円</td> </tr> <tr> <td>便益 B</td> <td style="text-align: right;">— 百万円</td> <td style="text-align: right;">15,542 百万円</td> <td style="text-align: right;">21,082 百万円</td> </tr> <tr> <td> 木材生産</td> <td style="text-align: right;">— 百万円</td> <td style="text-align: right;">239 百万円</td> <td style="text-align: right;">315 百万円</td> </tr> <tr> <td> 森林整備経費縮減</td> <td style="text-align: right;">— 百万円</td> <td style="text-align: right;">7,070 百万円</td> <td style="text-align: right;">10,162 百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td> 災害等軽減</td> <td style="text-align: right;">— 百万円</td> <td style="text-align: right;">1,343 百万円</td> <td style="text-align: right;">2,075 百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td> その他※</td> <td style="text-align: right;">— 百万円</td> <td style="text-align: right;">6,890 百万円</td> <td style="text-align: right;">8,530 百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B/C</td> <td style="text-align: center;">未算出</td> <td style="text-align: center;">1.03</td> <td style="text-align: center;">1.03</td> </tr> </tbody> </table> ※ その他は、維持管理費縮減便益、森林の総合利用便益等 費用便益比（B/C）は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。 （要因変化の分析） なし （3）事業実施による環境の変化 ①自然環境への影響 間伐等の実施により森林内の光環境が改善されたことで、下層植生が繁茂するなど、健全な森林が育成されている。 ②生活・居住環境等への影響 上野原市秋山地区から大月市梁川町の国道20号への到達時間が短縮された。 ③環境保全対策の効果発現状況（措置を講じた場合） なし （4）社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 ①社会経済状況の変化 なし ②関連計画・関連事業の状況の変化 なし ③事業環境等の変化 なし	項 目	着手時点	再評価時点	事後評価時点	総事業費	6,140 百万円	6,358 百万円	6,351 百万円	工 期	S58～H19	S58～R1	S58～R1	評価基準年	S58	(H15,H20,H25),H30	R7	経済効率性	費用 C	— 百万円	15,085 百万円	20,376 百万円	建設費	— 百万円	14,724 百万円	19,997 百万円	維持管理費	— 百万円	361 百万円	379 百万円		百万円	百万円	百万円	便益 B	— 百万円	15,542 百万円	21,082 百万円	木材生産	— 百万円	239 百万円	315 百万円	森林整備経費縮減	— 百万円	7,070 百万円	10,162 百万円		災害等軽減	— 百万円	1,343 百万円	2,075 百万円		その他※	— 百万円	6,890 百万円	8,530 百万円		B/C	未算出	1.03	1.03
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																																							
徒歩30分範囲内の人工林率	5.7%	50.2%																																																																							
項目	内容																																																																								
防火帯・延焼遮断帯の確保	林野火災時の防火帯としての機能が期待できる。消防車の出火箇所への到達が可能となり、効率的な消火活動が期待できる。																																																																								
アクセス機能の維持	国道20号と県道四日市場上野原線を連絡する新たなアクセスルートが確立された。																																																																								
項 目	着手時点	再評価時点	事後評価時点																																																																						
総事業費	6,140 百万円	6,358 百万円	6,351 百万円																																																																						
工 期	S58～H19	S58～R1	S58～R1																																																																						
評価基準年	S58	(H15,H20,H25),H30	R7																																																																						
経済効率性	費用 C	— 百万円	15,085 百万円	20,376 百万円																																																																					
	建設費	— 百万円	14,724 百万円	19,997 百万円																																																																					
	維持管理費	— 百万円	361 百万円	379 百万円																																																																					
		百万円	百万円	百万円																																																																					
	便益 B	— 百万円	15,542 百万円	21,082 百万円																																																																					
	木材生産	— 百万円	239 百万円	315 百万円																																																																					
	森林整備経費縮減	— 百万円	7,070 百万円	10,162 百万円																																																																					
	災害等軽減	— 百万円	1,343 百万円	2,075 百万円																																																																					
	その他※	— 百万円	6,890 百万円	8,530 百万円																																																																					
	B/C	未算出	1.03	1.03																																																																					

評価シート（２）

（５）今後の事後評価の必要性 〈有・無〉 （理由） 本路線の利用区域内森林については、「山梨東部地域森林計画」、「大月市森林整備計画」「上野原市森林整備計画」に基づき、既に森林整備が適切に行われており、今後においても計画的に森林整備が行われることが確実であるため、再度の事後評価の必要性はないと思われる。 □「有」の場合の実施時期及び方法 ・時期： 年度 ・方法：	（７）同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈有・無〉 （理由） なし （具体的反映策） なし
（６）本事業における改善措置の必要性 〈有・無〉 （理由） なし （具体的反映策） なし （既に実施した改善策の内容と効果） なし	（８）事業評価手法の見直しの必要性 〈有・無〉 （理由） なし （具体的反映策） なし （９）その他特筆すべき事項 〈有・無〉 トレイルランのコースとなるなど森林レクリエーションにも利用されており、地域の活性化が期待できる。

3.添付資料シート（1）



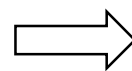
① 富士東部（北）線遠景



② 完成状況



③ 林内の状況（間伐前）



④ 林内の状況（間伐後）

3. 添付資料シート（2）



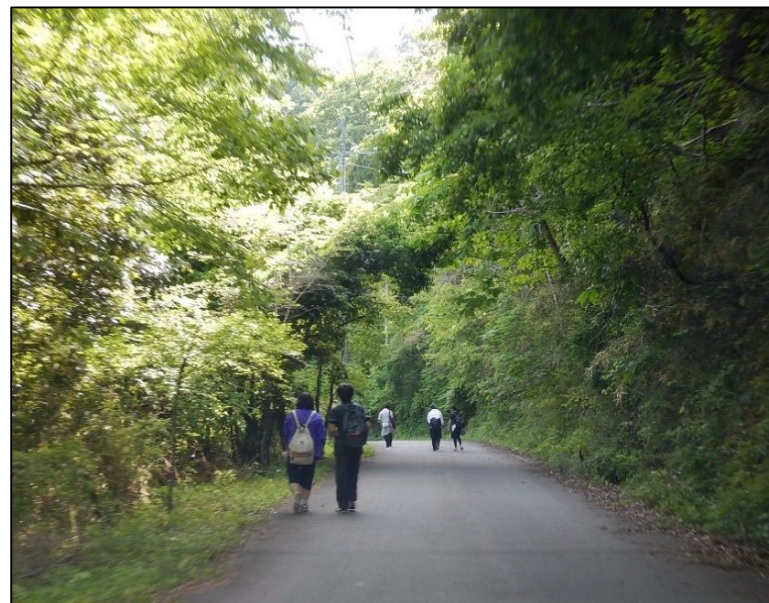
⑤ 林道を利用した木材の集積状況



⑥ 防火帯としての機能、効率的な消火活動



⑦ レクリエーション（上野原トレイルレース）利用状況

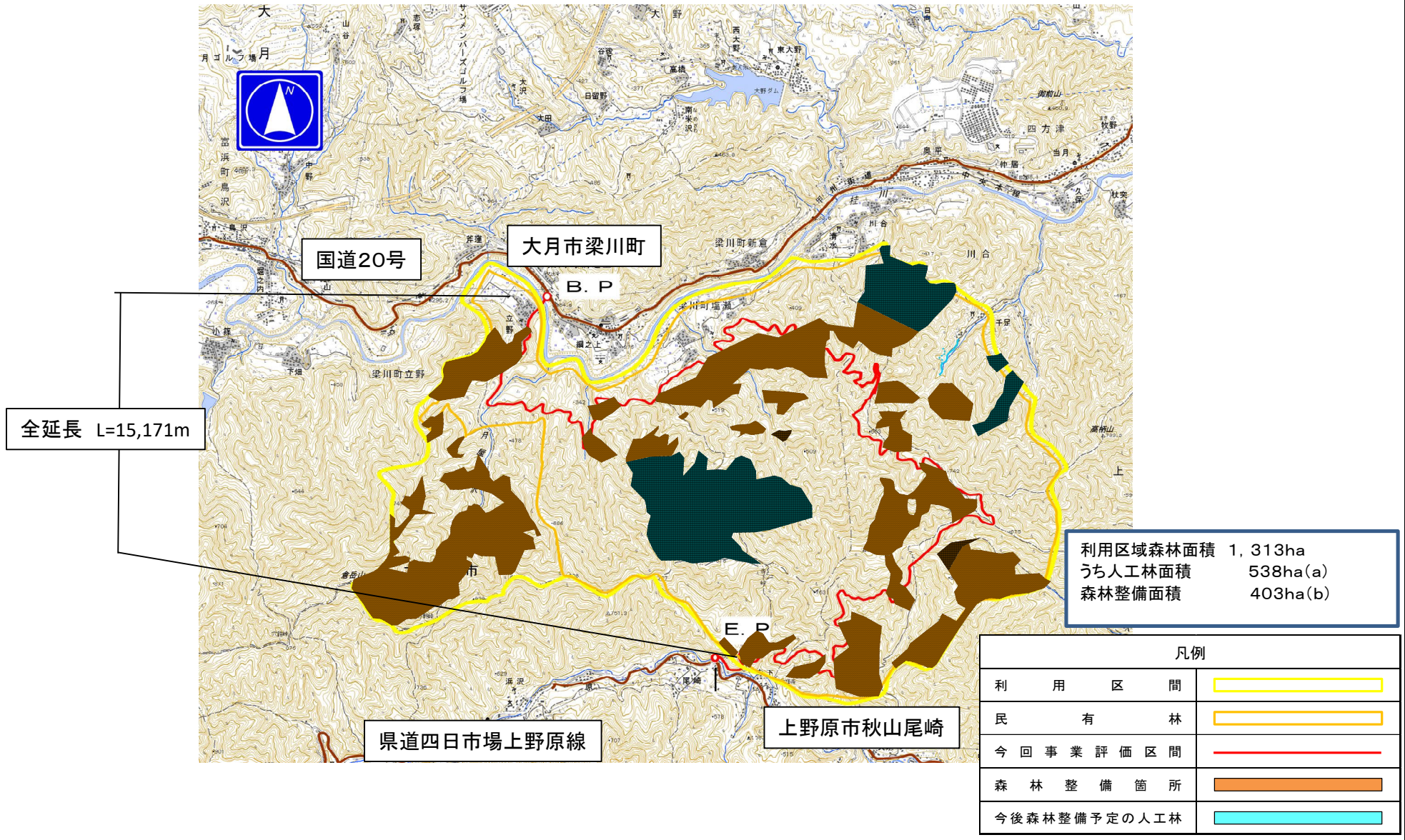


⑧ 登山客の林道利用状況

3.添付資料シート（3）

令和7年度公共事業評価路線位置図

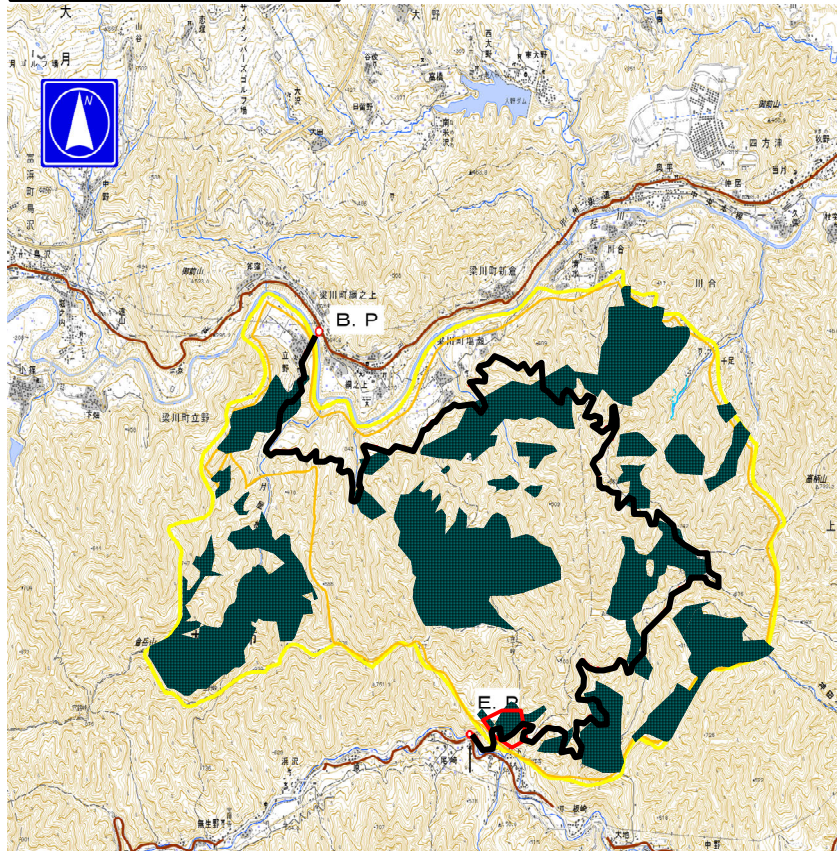
路線名 林道富士東部(北)線



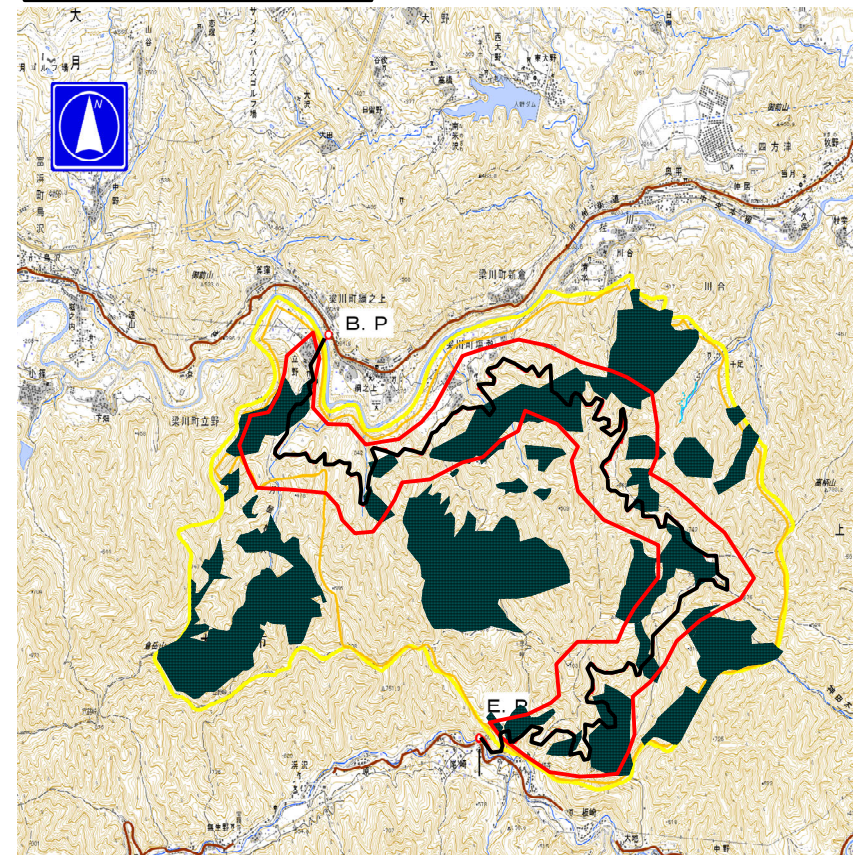
3.添付資料シート（4）

徒歩30分以内に到達できる範囲内の人工林率

事業実施前:5.7%



事業実施後:50.2%



m

- 利用区域
- 利用区域内人工林
- 徒歩30分圏内

4.年度別事業実施状況

年度	変更事業費 (千円)	事業概要	進捗率 (%)
～H14	4,504,750	開設延長 L= 9,568m	73
H15	185,000	開設延長 L= 548m	76
H16	127,000	開設延長 L= 331m	78
H17	70,000	開設延長 L= 289m	80
H18	70,000	開設延長 L= 342m	81
H19	70,000	開設延長 L= 321m	82
H20	140,000	開設延長 L= 588m	84
H21	140,000	開設延長 L= 494m	86
H22	115,000	開設延長 L= 400m	88
H23	115,000	開設延長 L= 476m	90
H24	130,000	開設延長 L= 382m	92
H25	100,000	開設延長 L= 212m	93
H26	70,000	開設延長 L= 180m	94
H27	140,000	開設延長 L= 382m	95
H28	146,001	開設延長 L= 284m	96
H29	104,259	開設延長 L= 118m	97
H30	59,158	開設延長 L= 153m	98
H31	64,900	開設延長 L= 103m	100
合計	6,351,068	開設延長合計 L= 15,171m	